

思いやり みんなのための 交通安全

交通安全
自分がその気に…三隅中学校1年
島岡 克江

沢江に住んでいる私は、「中学生」と言えば「自転車通学」という言葉がいとも一つにセットされて頭にうかんでくる。
小学校の五年まで自転車テストというものがあって、学校の前庭

夏の交通安全健民運動が七月十一日から実施されます。互いの思いやりで安全ルールを守りましょう。次の作文は、募集作文です。

にコースを作り、いろいろな乗車の実力テストをして一級から五級までを決める。はずかしい事なのだが、私は四・五級しか経験していないのだ。この二つの級は、どちらも家の周りだけのせいはいん囲しか乗る資格がないのだ。友達には「部落内」や「校区内」という広いはん囲だった。「うらやましいなあ」と思いながら私もそれを目指して練習をした。したといっても、十メートルぐらいを行ったり来たりするだけである。私は自然に自転車に乗らなくなってしまった。しかし、六年からは許可なしで乗れるようになった。それでも、何だかこわくて自転車に乗るようなことは、めったになかった。心配した母が、

「あんた、少し乗っちゃかんと、中学校になってこまるよ。」

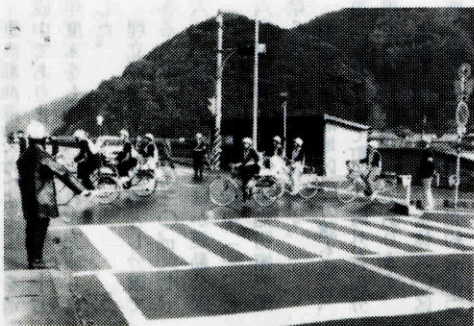
と言う。それで私も、

「乗ってみようかな。」

と思い、本格的に練習に取り組みやうと今ぐらゐ乗れるようになった現在、私は毎日気をひきしめて登下校している。

先日、私はこわい経験をした。下校中に曲がり角で急に車がでてきた。その瞬間「あつ」と背すじをつめたものが走った。しかし、車は止まってくれたので私は、頭をさげて通っていった。それから、その曲がり角は、特に気を付けて通っている。大きな事故にならないために。

交通安全旬間に入ったこのごろ、毎日のように「交通安全に心がけよう」という呼びかけをよく聞く。本気で心がけている人はどれだけ



いるだろうか。ルールを守っているような顔をして、かげでは守っていない人の方が多いと思う。実は、私も時々その一人になることがあるのだ。

「ここは止まりなさい。」

「自転車をついてわたりなさい。」

など、たくさんの方から教わっているのに、「ちょっとぐらゐい。」

「めんどくさい。」

という気持ちがいともある。もしも、ということがあったら、

「あそこで止まっていれば良かったのになあ。」と自分の行動をくやむだろう。後悔先に立たず、ということわざもある。一人一人が後でくやまないように今から交通ルールを守ればよいのだ。この簡単なことが、なぜ「めんどくさい」の一言で片づけられていたのだろう。おかしいことだ。

こうして見ると、私の身近な所でもなんでもないことでたくさんの事故がおこっているような気がする。みんなが立派な交通標語を

作っても、自分がその気にならないければだめだということがよくわかった。分らない所はお互いに教えあって、注意された方も、それを受け入れることが、標語を守っていきけることなのだ。

こうすれば、少しでも事故がなくなつて、楽しく、安心して毎日が過ごせるだろうと私は思う。

「アッ」その一瞬

三隅中学校2年
山本 八千代

「交通事故」それは新聞、テレビを見ていても交通事故という四文字は、毎日のように報道される。今日の私たちは交通事故と聞いてもそんなに驚かないだろう。それでは、なぜ今日では事故が多く発生し、聞き慣れた言葉になってしまったのだろうか。

交通事故というものは「あつ。」という一瞬で人の生死が決まるのだ。

例えば今、信号が赤としたら「このくらいのルールは自分一人が破つても、たいしたことはないだろう。」と思ひ渡つてしまふ。そういう自分勝手な判断、つまり、小さな心のゆるみから大きな事故へとつながっていくのだ。このくらいのことは、とかるい気持ちでやった信号無視。しかし事故をしてから後悔するようでは、も

車の事故をとつてみると交通三悪、つまり酒酔運転、無免許運転、スピード違反が、車の事故の半分をしめている。

この人達もかるい気持ちでやったのでしよう。しかし、他の人のことを考えたことがあるのでしょうか。きっと他の人はとてもめいわくをしているかもしれません。

一人一人がいくら気を付けても、今まであげたような人がいる限り交通事故は減らないと思います。

それでは、どうしたらいいのでしょうか。それは、きちんと交通ルールを守ること。いやそれよりも、何をするのにも気をひきしめ一つのこと集中するようにすればいいと思う。朝ねぼうして学校に遅れる、朝、口げんかになり家を出る。このようなことがあると心がいらいらしていて、とても危険です。

人の命はたった一つしかないのです。だからこゝろ他の人が悪い人を注意して、一人でも多くの命を救おうじゃありませんか。

そして、交通事故という言葉を一日常でも、二日常でもいから報道されぬようがんばろうじゃありませんか。

思いやりの心、ゆずり合う心、注意し合う勇氣、その三つが私たちの社会には、失われてはいないでしようか。

だれでもが願っている、交通事故のない町に「私たち人間は少しでも努力し、思いやりの心、ゆずり合う心、注意し合う勇氣、の三つを心に刻んでいたら、きっと交通事故は減ると思います。」